

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(6月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『アンジュール』

ある犬の物語

ガブリエル・バンサン 作 /BL出版

対象：小学生から高齢者まで



内容のご紹介

アンジュールは、フランス語で“ある日”とか“一日”という意味です。

この絵本は、文字や言葉がありません。鉛筆だけで描かれて、読者がこの絵本を見て何を感じるかが大切です。

表紙の犬は何を語り掛けているのでしょうか。私達にたくさんの言葉を掛けています。

車の窓から放り投げられる場面から始まります。作者は読者に何を感じさせるのでしょうか。

孤独の中で強く生きる姿に打たれます。

最後のシーンは、一人の子どもと出会いほっとして、安心する場面です。

一度は、読んで見て下さい。

ある日、犬は、野の道を疾走する車の窓から投げすてられる。にわか野良になった犬のその日の長いさすらいをたどって描く。目を吸いよせて離さない50を超える犬の姿態と表情はすぐれたデッサンにより酷いばかりの迫真である。

あるいはひとりに秘めておきたい絵と思い、誰かに見せずにはいられなくなる作品でもある。(紹介文/BE出版)

鉛筆の線だけで描かれた、文字のない絵本。たくさんの絵がたくさんのことを語り、仕事が忙しく、頭の中や心が乱れた時など、気持ちがりセットできる絵本としてお薦めします。もったいない図書館手づくり絵本コンクール審査委員長(ノンフィクション作家)柳田邦男先生も推奨している絵本の一つです。(矢祭もったいない図書)